



# まきは通信

第28号



## 喜ぶ人と共に喜ぶ

隠退牧師 大隅 啓三

シルバーホーム「まきは」の便箋の最下段には、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という

聖句が記されています。「まきは」の訪問客は、この言葉の精神がここに満ちて働いているのを肌で感じているに違いありません。

わたしは50数年前にここを訪れたことがあります。その時、ここは文字通りの「牧場」でした。そこに今では、人生の「まきは」があります。

ここは初めは、隠退教師の老人ホームとして企画されましたが、種々の理由で一般の人を迎え入れることになりました。それでキリスト教と繋がりを持たない方々を含めて、信徒の方々も迎え入れるようになりました。そのことによって「まきは」の生活全体が一段と豊かになったと言えます。この変転は主なる神の摂理であると信じ、感謝しています。

これに加えて更に「隠退牧師専用館」新設の幻が描かれているという知らせがあります。経済的には、決して恵まれているとは言えない牧師・伝道師たちの老後を支えるという点では、心強い配慮です。これはこの老人ホーム建設の初心に連結することであり、非常に望ましいことですし、心強いことです。本当に感謝したいことです。

先日、久しぶりに「まきは」を訪れました。以前の訪問時には、笑顔で迎えてくれた小崎牧師と、乗用車を運転して駅まで送ってくれた山本牧師は、すでにここでの生活を終えて召されていましたが、生前の彼らが「まきは」での生活を喜んでいたことが懐かしく思い出されました。また、現在入居されている篠田牧師の笑顔に励まされ、その他にも、先輩牧師

や後輩牧師たちの健在ぶりには、舌を巻きました。

しかし、こうした「まきは」入居者たちが安心して日々を送り、余生なお何事かに向かう意気を見せることができるのは、実は陰に力があっての事であるの言うまでもありません。

わたしが前々回に「まきは」を訪問したのは突然のことでした。わたしとしては、お邪魔にならないことが秘かな願いでした。それにも拘わらず、わたしを見つくと食事を一緒に摂るように勧めてくれたのです。そんなわけで「まきは」の食事にありつきました。これが、鈴木卓也兄と共働するスタッフたちの心意気です。

それは泣かせる事実です。こここの標語の「泣く人と共に泣きなさい」という心は更に深刻であるに違いないのですが、ここには「喜ぶ人と共に喜ぶ」精神が漲っていて、全職員が喜んで奉仕されているに違いないと感じました。それは、感謝という他はない事実です。これこそが「泣く人と共に泣きなさい」という勧告に共感している心に違いありません。



▲雪の日のまきは

# わたしの愛唱讃美歌



今号より、ご入居者の皆様の愛唱讃美歌をシリーズで紹介する企画を始めます。  
好きな讃美歌にまつわる思い出などを紹介してまいります。

西崎 史子姉  
(鵜方教会)



## 讃美歌 (1954年版) 312番

いつくしみ深き 友なるイエスは、  
罪とが憂いを とり去りたもう。  
こころの嘆きを 包ます述べて、  
などかは下さぬ、負える重荷を。

私は18才の時、群馬県の日本キリスト教団沼田教会で洗礼を受け、28才の時に結婚して三重県に来ました。1~2年してから、近くにあった鵜方教会に出席するようになり転会しました。沼田教会も鵜方教会も礼拝出席が20人くらいの教会でしたし、皆さんが親切に迎えてくださったので違和感はありませんでした。結婚する時に信徒であることを公にしていたので、教会へ行くことに反対されたこともありません。

受洗当時から、讃美歌312番が好きでした。代表的な讃美歌で親しみがあるし、歌いやすいメロディーです。私はアルトですが、ソプラノだけでなくアルトも取りやすいので、合唱していて楽しくなる曲です。

「いつくしみ深き」の歌い出しに、お父さんのような、お母さんのような、気持ちに訴えてくるような優しさを感じます。讃美歌は気持ちを柔らかくしてくれます。

鵜方教会では役員をする傍ら、三重地区婦人部で伝道の働きをしました。そんな時312番は、讃美歌以外でも歌われているメロディーなので誰でも歌える歌として親しみがあります。新しく来た人にも歌いやすく、皆さんと一緒に歌うのが楽しかったです。説教は聞く立場ですが、讃美歌は自分から参加しているという実感がありますし、歌っていると勇気が湧いてきます。

讃美歌はソプラノだけでなくアルトで歌えると一層良く感じます。私はもともと声が大きいし歌が好きで一生懸命歌うので、いつも大きな声で歌います。讃美歌を選曲する時は自信があるし音程も安定して歌えるので、迷わず312番を選びます。この歌にすれば安心です。

井上 和子姉  
(南山教会)



## 讃美歌21 484番

主われを愛す、主は強ければ、  
われ弱くとも 恐れはあらし。  
わが主イエス、わが主イエス、  
わが主イエス、われを愛す。

私は平成元年、69才の時、名古屋メソヂヤチャペルで洗礼を受けました。その教会では礼拝には聖歌を使い、牧師がギターを弾いてゴスペルを歌っていました。私はすでに高齢でしたから、なかなか教会音楽に馴染むことができませんでした。77才の時「まきば」に入居し、南山教会へ転会したので、讃美歌を歌うようになり、讃美歌を歌うことが好きになりました。転会した時はまだ昔の讃美歌でしたが、すぐに讃美歌21に変わったので、今は自然に讃美歌21に馴染んでいます。讃美歌も讃美歌21も、歌詞が良いと思います。

「まきば」で月に2回開催される「讃美の集い」で、講師の小崎姉が、手話でこの「主われを愛す」を指導してください。年を取ってから親しんだ讃美歌なので「主われを愛す」が覚えやすくてわかりやすいので好きです。

3番の「みくにの門を」のところで、両手で「門」の形を作って表現しますが、ここに人生の味わいを感じます。「わが主イエス」を繰り返すところも好きです。1番だけで3回繰り返し、4番まであるので、1度歌うと12回繰り返すことになりますが、何回繰り返しても飽きない歌詞とメロディーです。もっと繰り返したいほどここが好きです。

人生の嬉しかったことや悲しかったことなど、いろいろなことが浮かんできます。今、96年もの人生を経てきた者にとっては、こういう味わいのある讃美歌が受け入れやすく感じます。教会の礼拝でこの曲を歌うことは稀ですが、讃美の集いなどではよく歌う歌だと思えます。手話でも表現しやすくて、直接心に響くところが好きです。

## 施設長が行く!

前号で、施設長による出張公演の働きを紹介したところ、早速、お声が掛かり、出張してまいりました。こうしたご奉仕を通して、広く「まきば」の存在を知っていただける機会になればと喜んでいきます。

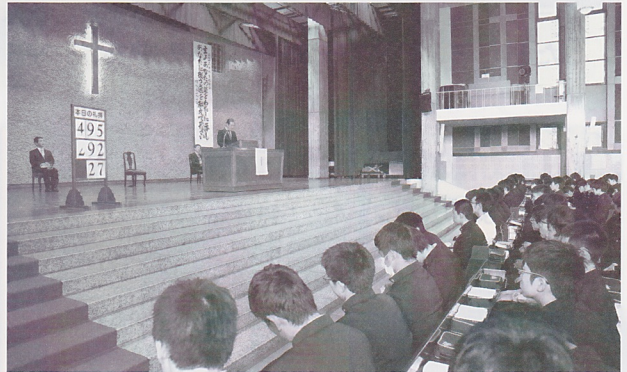


▲鈴木施設長

## 名古屋高等学校伝道週間

11月10日、名古屋学院名古屋高等学校「秋の伝道週間」プログラムの内、高校1年生約500人を前に、メッセージをしてまいりました。

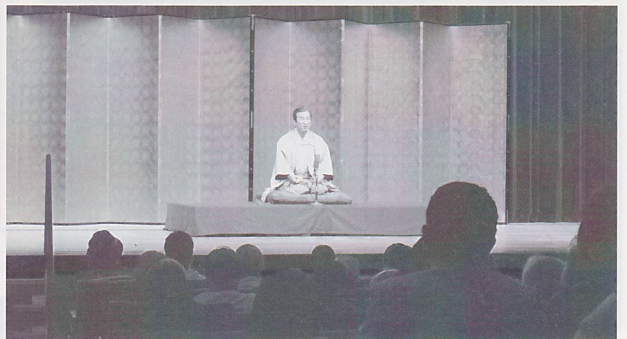
名高を卒業して50年になる先輩として、この50年の間にキリストと出会い、今ここにある主の恵みを伝えました。若い後輩達が、静かに熱心に聞いてくれて、感動して帰ってきました。



## 日進市シルバー人材センター創設30周年記念集会

11月14日、日進市民会館大ホールで開かれた記念式典に続いて、午後のアトラクションとして古典落語「湯屋番」を演じてきました。

1,080人収容可能な大きな会場に300人というまばらな入りでしたが、落語をするのには充分すぎる数のお客様でした。さりげなく「まきば」の宣伝も忘れずに入れてきました。



## 鈴鹿教会婦人会クリスマス会

鈴鹿教会では、毎年婦人会が中心になったクリスマス集会が開かれています。今年も12月3日に開催され、石田先生のクリスマスメッセージに続いてアトラクションとして落語を演じてきました。

毎年、この集会にだけ教会へ来るというご近所の方達や、婦人会員の友人も交えて33人の参加者がありました。

落語の後に、介護が必要になった家族への対応や状態に応じた介護施設の特徴などについての講演をし、最後に質問の時間を持ちました。プレゼント交換などもあり、和気あいあいとした楽しくて有意義なクリスマス伝道集会になりました。



# “まきば”に泊まろう!

## ～ 編集委員の宿泊体験 ～

「まきば」の良さを知っていただくために、これまで様々な企画を立ててきた編集委員が、一度「まきば」の生活を体験してみようということになりました。

今回は、赤池教会の森松牧師と鳴海教会の真木姉が一泊して「まきば」の24時間をウォッチしてみました。

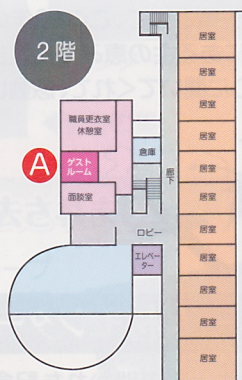


▲ゲストルーム ▲真木姉 ▲森松牧師

### 【森松民子牧師の感想】

良く眠れました。ゲストルームは旅館にきたようで、布団もフカフカで温かい上に、浴衣やタオルまで準備されていましたが、これが通常の体験入居と同じだと聞いて驚きました。シーツはクリーニングに出してあるし掃除も行き届いていて、本当にゆっくりできました。それに、職員の対応が丁寧です。これまでいろんな施設を見て来ましたが、「まきば」では職員同士の私語がありません。きちんと教育ができていますからだと思います。

何より、空気が良くて館内全体が明るい。たくさんの花に囲まれていて、楽園のような所だと思いました。これまでには用事がある時にしか来てなかったけど、今回は本当にゆっくりできて楽しかった。教会での仕事に疲れた時は、またここへ来てのんびりしたい。定期的に泊まることはできないかしら?



▲居室でゆったり



▲新館介護室にて



▲喫茶室でくつろぐ



▲テラスでお茶



▲裏庭遊歩道を散歩

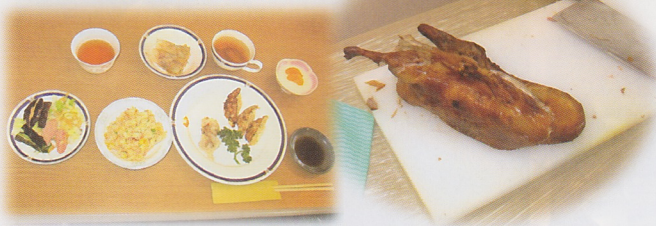


G ▲昼食は北京ダックと飲茶

H ▲聖書の集い



I ▲リハビリに参加して



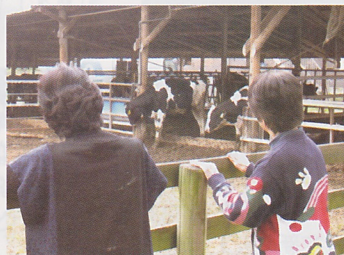
### 【真木芳子姉の感想】

丸みをもった全面ガラス張りの食堂から、夕日が落ちるように沈んで行くのを見ながら食べる夕食は最高でした。食事を楽しみながらたくさんの方たちと話すことができましたが、みなさん品が良くて親切で、まるで親戚みたいに感じました。本当に楽しく過ごすことができました。

いろんなプログラムを体験することができて一日が充実していました。今回は木曜日から金曜日にかけての宿泊でしたが、金曜日は「聖書の集い」があるので体験するなら金曜日がお勧めです。

その他のプログラムでは「リハビリ」が良い。専門家の指導で、みんなと一緒に体を動かしていると楽しいし、長生きができそうに感じました。

人数の割に館内が広く、ゆったりと暮らしていける感じがしました。是非、もう一度体験したい!



### 愛知国際病院



▲隣接する愛知国際病院にて

# まきばトピックス

このページは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や出来事を紹介するコーナーです。

## 隠退牧師の皆様がお越しくださいました

9月11日、浜松でお暮しになっている大隅啓三先生が「まきば」での「聖書の集い」でメッセージをするためにお越し下さったのに合わせて、同時代に中部教区で伝道を共に担われた加藤久雄牧師と北野寛牧師が来訪されました。

当日の「聖書の集い」には、篠田運営委員長を始め「まきば」在住の4人の隠退牧師も参加され、昭和の伝道史を担った7人の先生が揃いました。「まきば」が隠退牧師の住まいであるばかりでなく、こうして隠退牧師交流の場としても用いられていくことを願っています。



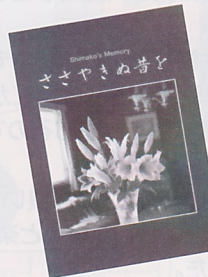
▲センター本部室で懇談する5人の隠退牧師

◀聖書の集い

## 愛知三愛福祉会創設者・尾崎志満子姉が逝去されました

「まきば」の隣にある特別養護老人ホーム「のぞみ」、グループホーム「あいわ」などを運営するキリスト教福祉団体「愛知三愛福祉会」の創設者で初代理事長、尾崎志満子姉が、愛知牧場を見渡す「のぞみ」の一室で天に召されました。

尾崎姉は、愛知牧場を開拓した尾関誠一氏の次女として生まれ、近江兄弟社でヴォーリス先生から教えを受け、南山教会の信徒として後輩の指導に当たってこられました。また、シルバーホーム「まきば」創設時の理事として、「まきば」の困難な時代を支えてこられました。



▲メモリアル・ブック

## まきば合唱団が新聞で紹介されました

職員によるコーラスグループ「まきば合唱団」が1月16日、中日新聞の地域版「中日ホームニュース」に、「元気届ける小さな聖歌隊」という見出しで掲載されました。

結成の経緯からこれまでの歩み、毎月2回の就業後の練習やクリスマスコンサートの様子、ご入居者の皆様の声などが紹介されました。これからもうっそう練習を重ねて皆様に元気を届けようと、メンバーは決意を新たにしました。



新聞記事▶

## 近隣施設職員懇親ボーリング大会がおこなわれました

近隣施設職員交流会『ぶどうの会』の懇親ボーリング大会が、2月16日、瀬戸市にある「東名ボール」を会場に開催されました。

ゲームは施設対抗の形で行われ、その後、併設のレストランで夕食を共にしながら表彰式が行われました。個人の部は、「まきば」の宿直を担当する今井正明さんが、団体の部は「まきば」が受賞しました。

普段は、合同研修など固い行事が多い中、笑い声の絶えないにぎやかな交流の時となりました。



▲懇親会での表彰式



▲施設対抗戦

## 新ご入居者様紹介



のぶ  
松永 乃婦 姉 (元中京教会・松永徳次郎牧師のお連れ合い)

夫、松永徳次郎が心筋梗塞を患い、73歳で隠退しました。夫は昔気質の人間で、夫人が前面に出ることを嫌っていましたので、あまり目立たないように教会のお手伝いをするのが日課でした。

その後は、鳴海教会の協力牧師として奉仕していましたので、私も一緒に通っていました。夫が78才で天に召され30年が経過しました。東区で一人暮らしをしながら、熱田教会の礼拝に出席していましたが、今は中京教会に戻りました。だから、受洗から今まで、ずっと中部教区でお世話になっていることになりました。

今回の入居に際しては、高橋先生始め中京教会の皆様、引越の手伝いなど随分心配をしていた

だき恐縮しています。「まきば」での生活を始めてみて驚いたことは、知っている人がたくさん入居していたことです。懐かしい戸田先生夫妻もみえますし、信徒の中にも親しい人が何人かいます。

それ以外にも、話していくと関係の深い人や、共通の知人が次々に出てきて「狭い世界だなア」と感じます。何より91歳になった篠田先生が、今もこのセンターの責任者として一緒に生活して下さっていることは心強い限りです。「やっぱりここは日本キリスト教団のセンターなんだ」ということを改めて実感しました。

ここへ入ったからには、最後まで安心して生活することができますし、本当に良かったと喜んでいきます。そして、「もっと仲間が入って来てくれたらいいのに」と願っています。

## スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、  
人格を大切に守る介護を実践してみませんか？  
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



正職員への任用制度もあります。これから資格取得を目指している方もご相談ください。

●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当・小中)

### 看護職員(昼間)

週1日～5日

【資格】看護師、准看護師

【勤務】基本は9:00～18:00(休憩1時間)ですが、  
勤務時間は相談に応じます。

### 看護職員(夜間)

週1日程度から。曜日に限定がある方は相談に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00～翌8:00(仮眠4時間あり)

【手当】精動手当あり

### 介護職員(昼間)

週2日～5日

【資格】介護福祉士、介護職員初任者研修修了  
(ホームヘルパー)

【勤務】7:00～18:30の間で実働8時間

## 入居予約受付中



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
silver home

# まきば

シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……  
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、  
緑豊かな自然に包まれて暮らす…  
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

#### 交通機関

名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から徒歩5900m  
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

#### 類型及び表示事項

施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式  
介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護/介護予防特定施設入居者生活介護  
入居時の要件/60才以上で入居時自立及び要支援の方  
居室区分/個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制/2:1以上

見学や体験入居もできます(要予約)

#### キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの  
定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。  
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会から  
バスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究  
祈禱会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」  
にも自由に出席することができます。



●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

## 編集後記

「まきば通信」28号をお読み頂きありがとうございます。今号の見どころは、センター推進委員2名による「まきば」に体験入居を行った様子を紹介している記事ではないでしょうか。「まきば」を見学したいけれども遠方の方や、入居を考えているけれども少し不安な方は、この「体験入居」をご利用になられてはいかがでしょうか。

また、「施設長が行く!」では、出張講演の様子を紹介しています。「教会や、個人的にも施設長の話を聞きたい。」「介護の問題を相談したい。」などと言ったご要望があれば、是非「まきば」までお問い合わせ下さい。

高齢化の社会では、諸教会・伝道所も高齢者介護に関する相談件数が増える事は必至です。今後「まきば」が、諸教会・伝道所を支え、日本基督教団のセンターとして活用される事を願っています。  
(小田部)

